

阿弥陀岳中央稜 ひとりの山

(報告) YAZA

○山行日：2017年9月4日

○メンバー：SOLO

昨年11月に、KANEさんと阿弥陀岳中央稜を登り御小屋尾根を下りた山行記は、ジャーナル49号に、KANEさんの投稿によって掲載されている。本年9月4日に全く同じルートを単独で辿った。記憶は鮮明なつもりで出かけたのだが、結果的には油断の基となった。実は昨年は初めてのルートだということで、ガイドブックの中央稜のページのコピーを持参し、時々それを広げたりして足を進めた。今回は2度目、そして記憶に新しいということで、コピーはおろか八ヶ岳の登山地図さえ持参しなかった。まさにおろかだった。

登山口となる船山十字路までは前回と同様、ナビが導いてくれた。歩き始めた時刻は5時35分、昨年より1時間45分も早かった。まだ日は長くおまけに雪の心配は全くない季節である。きょうはサッサと登ってサッサと下りて、麓で温泉にでも入ってゆったりと帰ろうと考えながら林道を進んだ。やがて林道の突き当たりに至り、踏み跡に従ってそのまま直進し沢の右岸を進んだ。すぐに堰堤が出てきてその左端を越えたが、その時、少し難しく、あれっ？去年こんなトコ通ったっけ？と思いつつ堰堤を乗り越えた。沢は涸れ沢となり、また、あれっ？だったが、少し進むと灌木の枝にテープがあり、これは間違っただけかと思いつつ上流に進んだ。草むらの中には確かに踏み跡があったが、進んでも進んでも見覚えのある所が出てこない。やはり違うかなと思い、戻ることにした。その時に木の枝になんたらかんたらチョウ調査という表示があり、つまりここら辺りはその蝶の調査のために、研究者が踏み入っていてトレースができていたのだと気がついたが、といつてどこへ向かえば良いのか見当もつかなかった。再び今度は涸れ沢に沿って上流に向かったが、見覚えのある箇所には行き当たらず、このルートはもう止めようと思いつつ登山口まで戻ることにした。その時、7時30分、越えて来た堰堤を逆から越えて林道に向かった。そして林道に出る少し手前の岩に描かれた赤い矢印を見つけた。ここから左岸に進路を変える矢印だった。昨年は11月、草は枯れていてその矢印にはすぐに気がついたのだ。ここで左岸に渡った記憶は全くなかった。そのために、あっちに行ったりこっちに行ったりして1時間30分程ロスしたことになった。今から中央稜に向かうのか、また判りにくい箇所が出てくるかも知れない。別のルートで阿弥陀岳を目指そうか。単独なので自分自身の気持ち次第である。

いろいろな思いを抱きながら対岸に渡ると、はっきりとした踏み跡、記憶にある踏み跡があった。よし行こうと思いつつ上流に向かった。それから幾度か、あれっ？と思う所はあったが大きなロスとはならなかった。季節が風景を変えていたのだ。草も生えているし木々

の葉も残っている。同じ山でも夏と冬の違い程の極端ではないが、初秋と晩秋でも違うのだなと思った。そして、それは自分にはとても面白いことだった。昨年と同じように右岸の取り付きからジグザグの急坂を登り、阿弥陀岳山塊の岸壁を頭上に仰ぎ、立っているだけでも転げ落ちそうな急勾配の斜面を登り切り、第一岩峰の基部に着いた。昨年はこの辺りから雪があった。ここは右側から巻き、再び急勾配を登り第二岩峰の基部に着いた。今



度は左側から上に出るのだが、最後は左側が切れ落ちている所を木の枝を掴みながらの登行となった。昨年はここに雪があったがアイゼンなしの登行で、かなり緊張した記憶が未だに鮮明に残っている。第二岩峰の上に出て視界が広がった。高度感があり風景をのんびりと楽しむ余裕はない。おまけにこの先も急な斜面が続いている。緊張することはないがスピードは出ない。

<阿弥陀岳山頂 赤岳が目の前> 御小屋尾根の分岐まで登り頂上は目の前である。

10時35分、阿弥陀岳の山頂に着いた。来て良かった。目の前に赤岳が聳えている。雲海の上に富士山が見える。また南アルプスも見えるが、ガスが湧き目の前の赤岳さえ時々隠してしまう。山頂には南稜を登って来たという登山者がいた。他に数人の登山者がいた。昼食を終え下山にかかる。御小屋尾根の始まりはかなりのもの、一步一步慎重に足を運んだ。そして傾斜が緩やかになってからは長いのだ。途中、御小屋山の表示板があるがピークはない。ただの分岐点である。右に進めば美濃戸に出る。船山十字路は左に進む。9月、この辺りにはさまざまなキノコが群生している。キノコを目にするといつも思う。キノコを知って食べられるキノコを収穫したいと。私はキノコ汁が大好きなのだ。

もう少しで林道に出る辺りでアサギマダラに出逢った。山旅の最終で、旅する蝶アサギマダラに出逢えたことがとても嬉しく感じた。やや大きめの蝶ではあるが、こんなフワフワした蝶が3,000キロも旅をするのかと感動すら覚える。自分もずっと旅をするのかな、旅をしたいのかなとふと思った。



13時35分、登山口に帰り着いた。

<アサギマダラ>